

滋賀の文化情報誌
デュエット

Duet

2013 春 vol.109

特集

ヤンマーミュージアム OPEN!



新撰 淡海木間撰 53 西教寺の阿弥陀如来坐像

INFORMATION STATION 催し案内 2013 春

MYBOOK 自費出版物の紹介

SUNRISE BOOK PRESS サンライズ出版の新刊案内



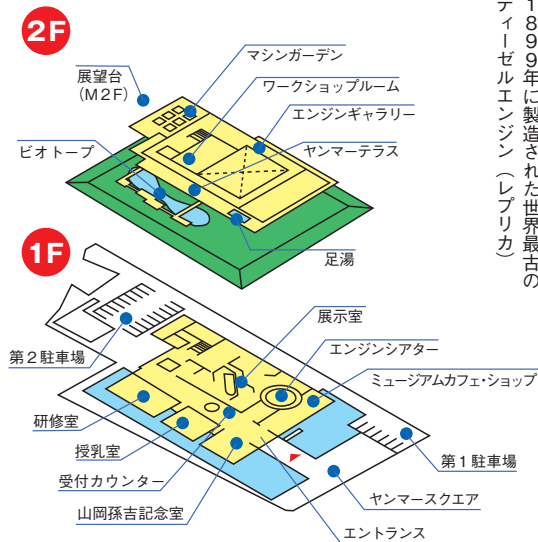
◀ 2階の屋外スペースに設けられた
バイオトープ（自然生態系の観察
モデル）→詳細は6～7ページ

今年3月21日、長浜市に新たな博物館「ヤンマー
ミュージアム」が開館しました。ヤンマーの創業者・
山岡孫吉の生誕地であり、多数の工場と中央研究所が
立地する湖北の地で、ディーゼルエンジンや農業機械、
建設機械、ボートなどの実物を多数展示、今後のさま
ざまな体験プログラムの準備も進んでいます。

特集

ヤンマーミュージアム OPEN!

長浜の街並みにあわせて、「黒壁」と「舟板堀」
をモチーフにした外観となっている館全景
(写真提供/ヤンマーミュージアム)



▶ MAN社ディーゼルエンジン
ディーゼルエンジンの父、ルドルフ・ディーゼル博士が技術者として
関わっていたMAN社（ドイツ）で、
1899年に製造された世界最古の
ディーゼルエンジン（レプリカ）



▶ 山岡孫吉記念室（観覧無料）。山岡
孫吉の業績と、結びつきの強かった
ディーゼルエンジンのふるさとドイ
ツとの関わりなどが紹介されている

ヤンマー創業者
山岡 孫吉 (1888~1962)



伊香郡南富永村（現、
長浜市）生まれ。1912年、
大阪市北区に山岡発動機
工作所（現、ヤンマー）
を創業



歴史的にも深い関わりのある湖北の地で、 地域との一体感が生まれることを 期待します。

ヤンマーミュージアム館長 小林文博さん

「企業博物館は、本社の隣の一面に設けるようなことが多く、ヤンマーの場合なら、大阪本社の近くに開館なさるのが普通だと思いますが、それが長浜にできた。これは非常に珍しいケースでは？」

ヤンマーは昨年3月に100周年を迎え、今年は100年目にあたります。そこでグローバルな人材育成をめざし、長浜工場の南に研修センター¹の建築が計画されました。そこには、社員に当社の歴史を学んでもらう、創業者の想いを伝える場として展示コーナーを設ける必要がある。それなら、「一般の方にも当社のことを伝える場がないか」と現社長が考えたのが、当館の始まりです。実際完成してみると、当初の研修センターよりも、こちらの博物館の方が派手になってしまいました（笑）。

おっしゃったように、大阪本社の近くでもよかったでしょうし、尼崎（兵庫県）の工場には小さいのですが資料館があるので、それを拡大するという選択肢もありました。けれど、満足いただけるものをお見

せするにはある程度の面積が必要なたため、もとと長浜工場の敷地内で研修所のあったこの地が選ばれたということです。

創業者である山岡孫吉生誕の地ということで、工場群も多いですし、従業員をふくめ関わっている方が多い地でもあります。長浜工場設置が昭和17年（1942）です。ヤンマーのモノづくりの現場に3代続けて携わっているといった方もおられます。歴史的にもトータルで深い関わりがある湖北の地の方が、都会よりも館と地域の一体感が生まれるのではないかと、という期待もあります。

——もとは入社当初に来る研修所があった場所、社員の方には非常に懐かしい地だそうですね。

そうですね。だいたいここで「刷り込み」をされたんです（笑）。まず、文化系・理科系の区別なく全員が、エンジンをはらして、組んで、基本を学ぶということをやるんですね。数人のチームで1台をあてがわれるんですが、あんがい理系だから速いと

プロフィール

こばやし・ふみひろ／1975年、ヤンマーディーゼル株式会社（現ヤンマー）入社。船舶の開発部門に配属された後、木之本工場の農業用トラクターの開発部門へ。1990年から新商品開発（ゴルフカートなど）を担当。1997年、建機部門（福岡県筑後市）に異動。開発部長、事業部長を経て、2004年、同部門が分社化、ヤンマー建機となったのにもない、同社社長に就任。2013年、ヤンマーミュージアム開館にともない初代館長に就任。

↓ヤンマーミュージアムと隣接して、今年2月に竣工したヤンマーグローバル研修センター。海外もふくむヤンマーグループ社員の教育の場となる



いうわけでもなくて、おもしろかったです。「ヤンマー」と聞いて多くの人がイメージするのは農業機械だと思うのですが、やはり基本はディーゼルエンジン、発動機ということですか。

社内を見てもそういう雰囲気がありますね。100周年を迎えましたが、明治45年（1912）の山岡発動機工作所設立から50年間、前半はエンジンメーカーでした。半世紀たった昭和36年（1961）に、本格的に農業機械丸ごとをつくるヤンマー農機を設立しています。

——「ディーゼルエンジンとは何か？」からお尋ねしてよろしいですか。

あの玄関にドンとある大きなMAN社のディーゼルエンジンから説明し始めると時間がたりませんね（笑）。ガソリンエンジンとの違いは、一言でいえば、「点火プラグがない」ということでしょうか。ディーゼルの場合、空気を圧縮して、かなり高温になったところに霧状にした燃料を吹き込み、自然に燃やします。ガソリンの場合は空気と混ぜてタイミングを合わせなければ



いけないので、質が悪いとノッキング（異常燃焼で金属性の打撃音と振動を生じること）を起こしたりします。一方、ディーゼルは、重油や軽油など、質の悪い油でも燃料にできます。コールドタールに近いようなものでも、暖めて少しゆるくできれば使えます。大型船の場合は、経済性からそういう低質油を使っています。

——創業者の山岡孫吉さんは、燃料費が安くすむ点でユーザーのためになると目をおつけになったわけですね。

湖北の農村²に生まれ育った山岡は、農業分野での需要があることがわかっていました。最初は石油エンジンを製造販売していたのですが、昭和7年（1932）に視察で訪れたドイツ・ライプチヒの見本市でディーゼルエンジンに出会い、国内用にその小型化に取り組みます。翌年、世界初の小型ディーゼルエンジンHB型³を完成させ、昭和11年（1936）に尼崎に設立した山岡内燃機でディーゼルエンジンの生産を開始しました。

戦前は、エンジンと、それぞれの作業をする機械は別売りで、両者を平ベルトでつないで動かすというかたち⁴だったわけです。そのエンジンで糊摺機^{もみすりき}を動かしたり、



↑山岡孫吉のふるさと、長浜市高月町東阿閉。中央にそびえるドイツ・ゴシック様式の塔をもつ建物は、1958年に山岡が私費で寄贈した東阿閉公民館。通称「ヤンマー会館」(写真提供/長浜市)

水を田にあげる揚水ポンプ^{ようすい}を動かしたりして、農業現場の機械化が始まったんです。コンバイン、トラクター、田植機などの一体化した状態の機械が商品として流通するようになったのは、昭和30年代ぐらいからです。展示しているものでいえば、昭和40年前後の耕うん機⁵が一台ありますね。

——農業機械の特徴として、田植機であれば泥の中のように厳しい環境で動かす点があると思いますが？

先輩方の苦労はあったかと思っています。泥の中の場合だけでなく、土の性質は千差万別なんです。作物の生育状態によっても変わりますし、台風で倒れたあとの刈り取りなんてことも起こります。温暖な地域と寒冷な地域の違いもあります。国内だけでも千差万別のそれらの諸条件に対応できる懐の深さというのが要求されます。

——もう一つ、農業機械の特徴として、年1回しか動かさない。この点は、メーカーとしてどう対応なさってきたのでしょうか

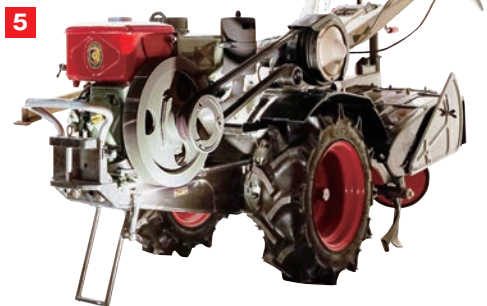
その面でも、ディーゼルエンジンであることが有効だったと思います。ガソリンエンジンの場合は、燃料が残っていると揮発^{ぶんぱつ}、着火しやすい部分が全部飛んでしまい、それ以外のガム状のものが残って、キャブレター（燃料を吹く霧吹機^{きりふきき}にあたるもの）がつまってしまうんです。燃料を抜かないでいると、翌年は動きません。

ディーゼルの場合は燃料の性質上、その心配はありません。もちろんバッテリーは充電する必要がありますが。

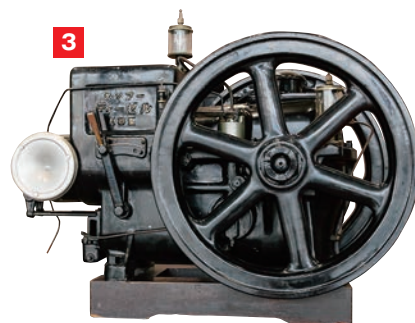
館内には農業機械以外に、船や建設機械なども展示されています。これらの分野との関わりはいつからになるのでしょうか

戦後まもなくは食糧難を克服するために漁業が奨励されたので、漁船用エンジンが稼ぎ頭だった時期がありました。戦後、海

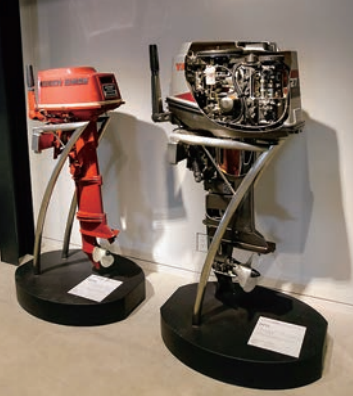
↓1階に展示されている耕うん機PM型。ヤンマー農機が発足したばかりの頃の製品で、まだベルト部分にカバーもない



↓平ベルトでつないで糊摺機の動力として用いられているヤンマーのNK2型ディーゼル（昭和30年、『農機無限—ヤンマー農機20年のあゆみ』より）



↑1933年に完成した世界初の小型模型水冷ディーゼルエンジンHB型（山岡孫吉記念室に展示）。2009年には経済産業省より「近代化産業遺産」に認定された



↑2階にあるエンジンギャラリーでは、各分野のエンジンが時代順に展示され、その技術進歩を学べる。写真は、小型船舶用のディーゼル船外機



↑⇒1階展示室は、農業ゾーン、まちづくりゾーン、海洋ゾーンに分かれ、それぞれで用いられる農業機械、建設機械、船舶での試乗・操縦体験ができる



軍の技術将校だった人々を多数ヤンマーに招いて、艦船の技術を漁船の技術として使い、信頼性の高いエンジンにしたという経緯もあります。以来、小型漁船エンジンは高いシェアを誇っています。

時代的には、その次に地方の農機メーカー向け農業用エンジンの需要が増加する時代が訪れ、やがて提携して農機製造の道が開かれていきました。

一方で、東京オリンピック以降、交通網や上下水道の整備が進む中で、土木建設業界向けに人力作業を省力化する小型建設機械を開発していきました。

21世紀に入ってからとはどんな変化が起こっていますか。

やはり、海外展開が活発になったということはいえるかもしれません。いまはちょうど東南アジアが数十年前の日本のような時期にきていると思いますね。農村の男子が工場に勤めるために都会に出て行く。農業従事者が減ってくるので、機械化せざるをえない。農業機械の場合、これまでに蓄積されてきた技術が、東南アジアの水田で花開いてきたように感じます。

ただ、東南アジア向けで大変なのは、稼働時間の長さです。タイやインドネシアは地域によっては年3回コメが収穫できます。日本の場合、数十時間ですんでいた年間稼働時間が、1000時間、2000時間というところもあります。

小型エンジン部門である長浜市内の工場です。できたエンジンも多くが輸出されているのです。

小型エンジンの中でも、私たちが新入社員研修で分解したようなシンプルな構造のものは、タイやインドネシアの工場です。長浜の工場です。高い技術力、高い精度が必要なもの

に特化しており、販売先は、国内と海外の建設機械や農業機械のメーカーです。国内メーカーでいえばコマツさんのシヨベルはヤンマーのエンジンが積まれている、製品の半分ぐらいはコマツさんのシヨベルとして海外に輸出されています。中国の機械メーカーさんでも、自社製品を外国に輸出する場合、エンジンだけは耐久性の高いヤンマー製です。価格面でも買っています。

つまり、欧米や中国の機械メーカーに部品としてエンジン単体で買っていた場合、国内のお取引メーカーで商品にまで仕上げられて輸出される場合とがあり、最終的に働いているのは海外が多いと思います。

最後に、館の見所をお教えください。

一番はやはり本物にさわれるという点ですね。子どもさんに一番人気があるのはミニシヨベルカーの操縦と船の操縦のコーナーです。日曜日には長い列ができてしまっていますが、本物にふれる機会、まして動かす機会というのはなかなかないですから、ぜひ体験していただきたいですね。まだオープンしたばかりですが、入館者の傾向はいかがでしょうか。

いまは圧倒的に親子連れさんが多いです。現在（取材時）は春休みということもあるのでしょうか。若い親御さんとそのお子さんか、お孫さんとおじいさん、おばあさんの組み合わせがほとんどです。

他に、トラクターや田植機をお使いになつていた農家の方が、「昔、使ってたんだ」と言っていて、ガイドの者と話し込んでおられる光景もみられます。

ゆくゆくは、小学校や中学校の生徒さんに団体で来館いただき、ものづくり全般やエネルギー分野の学習の場となることを想定しています。

陸続きではないおかげで、琵琶湖岸本来の植物相に近い環境に新たな発見が生まれるはずです。

滋賀県立琵琶湖博物館学芸員 澤邊久美子さん

——ヤンマーミュージアムの2階に設けられたビオトープに、澤邊さんはどのように関わられたのですか。

ヤンマーさんから、ビオトープの生物と活用方法についてご相談を受け、琵琶湖博物館の他の学芸員の協力も得てですが、まず入れる生き物をどうするかということ、設計段階で選定されていた植物種の確認を行いました。ヤンマーさんからは琵琶湖の湖岸をイメージして「滋賀県産の琵琶湖の在来種で設計しています」との説明がありましたので、そういった観点から樹種の確認とアドバイスをさせていただきました。そして開館後は、このビオトープを学校連携の活動、環境学習の中でどう活用していくかをご提案しています。

魚はまだ入っていません。植物以外には、飛ぶ能力がある水生昆虫がすでに入っています。これから基本的には「やってくる

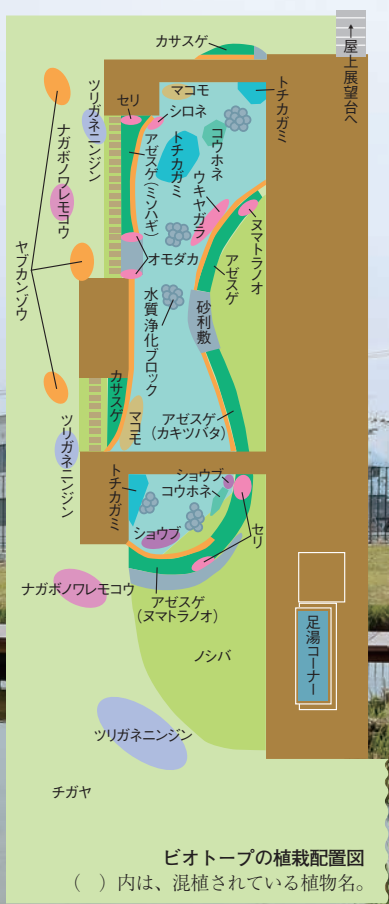
生き物を待とう」という方針です。

魚のように自力では入ってこない生き物は、時期をみて少しずつ入れる計画です。今日の打ち合わせで、まずメダカを4月中には入れることが決まりました。もともと琵琶湖岸に在る種で、このビオトープの水位（平均15cm）や水温を考え、地域のメダカを選びました。夏の高温と冬の積雪を考えると、30cm程度の深みがほしかったのですが、屋上では難しかったため、避難場所として観察デッキを広くして陰を増やしました。メダカも、すでに環境省のレッドデータ

ブックでは絶滅危惧種になっている種ですし、メダカで一年よすを見て、その後は他の希少種などの保全にも役立てていきたいというヤンマーさんの希望もあります。

このような2階の屋上にビオトープを設けている例は、他にもありますか。

屋上緑化を目的に大阪でビルの屋上に森



ビオトープの植栽配置図

() 内は、混植されている植物名。

をつくった例はありますが、水も入れたビオトープは珍しいと思います。逆にいうと、普通のビオトープは地面と陸続きの場所につくられるので、飛べない生き物、外来種のウシガエルやアメリカザリガニが入ってきてしまうことが多いんです。けれど、屋上であれば、その確率は低くなる点が立地上のメリットだと思います。

外来種や飼えなくなった生物など種類を選ばず入れるのではなく、長浜の「地域の生物がすめる環境を目指す」というのは、ビオトープを維持するうえでの基本です。その点は、来館者、観察会などの利用のさいにも訴えていくつもりです。その条件下で、自然に生えてくる植物、見つかる生き物というのはどんな種なのか、それを観察していくのはおもしろいと思いますね。屋上にあることで入ってこない生き物がいた場合、他の生き物にはどんな変化があるのかなど、おもしろい研究もできる空間じゃないかなと期待しています。

水の出入りはどうなっているのですか。

井水(井戸水)。つまり館近くの地下水が自動的に供給できるようになっています。夏場は水温が高くなるのが予想されるので、水温を井水の供給で調整する予定です。雨が降って水かさが増えても、排水があるわけではなく、そのまま水位が上昇していつか、屋根の縁に流れ出る仕組みです。通常は周りの土に水が自然にしみていつか、あとは蒸散して水位が保たれます。なので、植物が生えているきわの土をさわるとかなり湿気っているんですよ。生き物にはそれがいいんです。水と芝生が直接つながり、土の中の水分量が徐々に変化していくというような環境は、琵琶湖の湖岸の本来の環境にも近いものです。そこで植物の種類が徐々に変わっていくようすを見ることがで



きるはずです。

屋上だったため、重量があり深い根を張る樹木を植えられませんでした。その分、草地の面積が広くなりました。ピオトープという「池」のイメージが強いですが、もともとの意味は、生き物がすむ環境すべてを指しますので、水にすむ生き物だけではなく、草地にすむ生き物にも関心をもってもらえたらと思います。

現時点で茶色に見えている大部分のところには、チガヤという植物が生える予定ですが、これは日本在来の植物で、草地の植物の代表のような種です。秋には紅葉しますし、穂は真っ白でとてもきれいです。季節によって変化する草地の景観を楽しんでもらうこともできるでしょう。

——草が育ったら子どもの姿が隠れてしまうぐらいにはなりますね。

刈り取りなどの面でも手入れがピオトープには必要です。ピオトープは、「つねに関わっていかなければいけないもの」、「ほったらかしでは完成しないもの」です。から。そうした管理も、これはヤンマーさん側の意向でもあるのですが、地域の方々に積極的に関わってもらえるとうれしいです。地域の人が気になるようなピオトープを作り、集まった人の中から観察会などのガイド役、リーダー役の人が生まれ、新たに訪れた人に知識を伝えていく、そんなつながりがこのピオトープを通して生まれることが、ヤンマーさんと私たちの願いです。

(2013.4.4)

プロフィール

さわべ・くみこ／三田市有馬富士自然学習センター勤務を経て、2011年より滋賀県立琵琶湖博物館に勤務。専門分野・博物館学（茅原の生物相をテーマにした参加型調査による博物館の地域連携・活用方法 など）。

操作方法は100%実機と同じです。

OBボランティア 杉山与志男さん

——展示コーナーに来るといっしょやる、そろいの赤いベストを着た皆さんはヤンマーを定年退職なさったOBだそうですが、操縦コーナーの機械の操作の案内や展示の解説は、約50名のヤンマーOBが務めています。65歳の私が一番の若手ぐらい、70歳代の人が多く、最高齢は82歳です。5つのコーナーごとに10人ずつの体制で、1日2人ローテーションで館にきています。

立地からしても営利でやっているわけではないことがわかるので、少しでもヤンマーに対する理解が深まればと、自主的に集まったメンバーです。

屋内ですので、ショベルの動力は電気ですが、操作方法は100%実機（現場で使われている本物の機械）と同じです。もちろん安全のために可動範囲に制限はかけてあります。本当は、これもキャタピラより上が360度回転するんやけど…（笑）。

プロフィール
すぎやま・よしお／昭和40年代、小型建設機械の販売が始めた頃に入社。以来、湖北地域で建機部門の販売・営業サービスを担当。



■ヤンマーミュージアム

住 所	長浜市三和町7-35
連 絡 先	TEL 0749 (62) 8887 FAX 0749 (62) 8780 E-MAIL : yanmarmuseum@yanmar.co.jp
入 館 料	一般600円、中・小学生300円、未就学児 無料
開館時間	10:00～18:00 (入館受付は17:00まで)
休 館 日	月曜日 (月曜日が祝日や振替休日の場合は翌日)、 年末年始 (12月29日～1月3日)
アクセス	JR長浜駅より徒歩10分 (シャトルバスを随時運行)、 北陸自動車道長浜 ICより車で10分

ヤンマーミュージアム 体験農園

2013年
5月開園

この5月、ヤンマーミュージアム
付属の体験農園が、JR 田村駅北に
開園します。

OBスタッフの指導で、春には田
植えと代掻き、夏は野菜づくり、秋
は稲刈りなどを体験できます。

くわしい内容やお申し込み (予約・
定員制) は、上記ヤンマーミュージ
アムまでお問い合わせください。[料
金は体験の内容ごとに異なります。]

(写真はイメージです)



平安ビューティー

西教寺の阿弥陀如来坐像

大津市歴史博物館学芸員
寺島典人

日本の歴史をみると、どの時代にもその時代を表す雰囲気や美というものがあります。それをもっとも端的に表しているのが仏像です。我が国には膨大な質量の仏像が現存し、それらをもっとも各時代に流行した様式を我々は今感じることが出来ます。今回紹介する大津市坂本の天台真盛宗総本山西教寺の本尊、木造阿弥陀如来坐像（重要文化財）は、その最たる像といえます。

その顔は丸くべったりとしていて、肉体も起伏が少なく温和な感じます。着衣もあつさりで、衣文は浅く「さらっ」としています。体の奥行きも少なく平板で、全体的に平面的な印象を与えます。鑿さばきが鋭く、木彫美を強調する平安初期や、躍動的な写実を感じさせる鎌倉初期との狭間で、これらとはまったく違う「ほわぁ〜」とした作風です。

11世紀中頃から無仏時代の末法の世の中となり、人々は不安だらけの生活を送ります。そんな中、平安貴族はこのような上品で安穩とした作風を愛したのです。まさに平和を夢見た、優美な平安ビューティー。特に極楽浄土の阿弥陀如来は、このようなお姿であるに違いないと彼らは信じたのでしょう。

本像のすごいところは、飛天と化仏を表した「飛天光背」をも具備しているところです。左右に

撮影：筆者



6体ずつ、計12体配された飛天は、雲と天衣とで形作られた光背のなかに、透かし彫りで浮き上がっています。軽快に樂器を奏でるなど、楽しそうな仕草でやさしくふるまう姿からは、典雅な魅力を感じることが出来ます。また、本尊と同じ姿の「化仏」も12体付属しており、全体としてゴージャスな12世紀の莊嚴を体感することが出来ます。

本像のように丈六の阿弥陀如来像で、平安時代の飛天と化仏を残す例は、全国的に見ても稀有なことです。それぞれ相貌も表情豊かで、かなり技量の高い都の仏師の造像であることをうかがわれます。平安時代の極楽のイメージを、現代の我々にしっかりと伝えてくれているのです。



春季特別展 ガラス ～色彩の饗宴～

開催中～6月9日(日)
MIHO MUSEUM

大英博物館から特別出展される古代ガラスの世界的名宝10点に、国内の優れたガラスコレクションを合わせて、232点の作品を展示します。

休館日：月曜（4／29・5／6は開館、4／30・5／7は休館）

入館料：大人1,000円、高大生800円、小中生300円

お問い合わせ先：TEL 0748 (82) 3411



スパイラルレースガラス碗

東地中海地域（伝クレタ島出土）。前2世紀
大英博物館蔵 ©The Trustees of the British Museum

こころのふる里を描く・ 中路融人展

4月27日(土)～6月23日(日)
東近江市近江商人博物館

平成24年度の文化功労者として顕彰されたことを記念した作品展。中路融人画伯がこれまでに数多く描いてきた湖国の風景を、日展作品を中心に紹介します。



中路融人「朝霧」第33回日展（2001年）

休館日：月曜（祝日の場合は開館し翌日休館）・祝日の翌日

入館料：大人200円、小中学生100円

お問い合わせ先：TEL 0748 (48) 7101

近江の植物学者 橋本忠太郎 ～滋賀の植物研究にかけた情熱

開催中～6月9日(日)
滋賀県立琵琶湖博物館

日野町出身の橋本忠太郎が採集した植物標本約2万点が琵琶湖博物館に寄贈されることを記念して開催。その業績をたどりながら、実物標本と写真を中心に滋賀の植物相やその特色について紹介します。

観覧料：無料（常設展示の観覧には別途観覧料が必要）

休館日：月曜（祝日の場合は翌日）

お問い合わせ先：TEL 077 (568) 4811



オオミコザサ

橋本忠太郎が三上山で採集し、小泉源一教授（当時）が新種記載しました。そえられた葉書は小泉教授から橋本にあてた、新種（Sasa hashimotoi Koidz.）とするという昭和10年の年賀状。

フランス印象派の陶磁器 1866-1886 ジャポニスムの成熟

開催中～6月9日(日)
滋賀県立陶芸の森陶芸館

日本で初めて、フランス印象派時代の陶磁器を系統的に紹介。印象派スタイルの絵付けをした陶磁器を初めてとして、19世紀後半のフランスが憧れた東洋や日本の美術が色濃く反映されたテーブルウェアや陶芸作品をご覧ください。

観覧料：一般700円、高大生500円、小中生以下無料

休館日：月曜（祝日の場合は翌日）

お問い合わせ先：TEL 0748 (83) 0968

春季テーマ展 姥ヶ餅焼

開催中～5月26日(日)
草津宿街道交流館

草津名物「うばがもち」をのせる皿を焼いたのが始まりとされる「姥ヶ餅焼」を紹介。

観覧料：一般200円、高大生150円

小中学生100円

休館日：月曜（祝日場合は翌日）

お問い合わせ先：TEL 077 (567) 0030

天台古刹 湖東三山の至宝 —百済寺・金剛輪寺・西明寺—

4月27日(土)～5月31日(金)
愛荘町立歴史文化博物館

今年、湖東三山にスマート IC が開通することを記念し、西明寺の密教法具、金剛輪寺の不動明王立像、百済寺の石曳図繪馬など各寺の至宝を紹介します。

休館日：月曜・火曜（祝日は開館）

入館料：大人300円、小中生150円

無料入館日：5月3～6日（国際博物館の日）

お問い合わせ先：TEL 0749 (37) 4500



重要文化財 華鬘
（鎌倉時代 金剛輪寺蔵）
銅に鍍金を施した金銅製で、全体に蓮華唐草文が透彫されています。

展示テーマ 絵画の中の麗人たち

5月1日(水)～6月10日(月)
木下美術館

美術品との敷居を低くすることをコンセプトに、作品と観覧者の間にガラスなどの遮蔽物をもうけない展示を行っている美術館。「絵画の中の麗人たち」をテーマに近代日本画の作品を展示します。

利用料金：500円

休館日：火曜・水曜（国民の祝日除く）

お問い合わせ先：TEL 077 (575) 1148



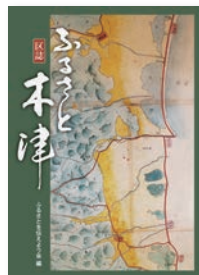
書店で
発売中

大津百町我儘百景

ひやくちようわがまま
あんらくよしまさ 著

A5判並製本 総208頁 定価2100円

古都大津の魅力を発信し続けているブログ「大津謎学の旅」とポータルサイト「おおつ+1」の「プラスさんの日記」に掲載したものを元に、大津まちあるきと大津で暮らす人々のことをまとめた一冊。(2013. 2.20刊)



区誌 ふるさと木津

こうつ
ふるさとを伝えよう会 編

B5判上製本 総326頁 非売品

同合先 高島市新旭町饗庭3954 (松田保宏)

古代より若狭からの物資の琵琶湖岸の集散地として、今津とともに栄えた木津(古津とも書いた)。饗庭野をめぐる山論の記録や社内社である波爾布神社の祭礼、3体の観音さんなど、地域の信仰と暮らしの特色を紹介。(2013. 3.31刊)



書店で
発売中

カヌーでめぐる湖 IV

琵琶湖からヨーロッパの湖まで

岡田明彦 著

四六判並製本 総232頁 定価1890円

自然と対話するには、カヌーが一番。琵琶湖とその周辺、国内の各地湖、地上の楽園タヒチ、そして初秋のヨーロッパの湖へ。70代を迎えた著者によるツーリングの記録第4弾。(2013. 3.20刊)



歌集 お浄土も春ですか

西山美枝子 著

A5判上製本 総160頁 非売品

同合先 犬上郡豊郷町八町934 (著者)

「お浄土ももう春ですか」写真さへ明るい部屋にて夫との会話
長男と夫の死を経て、なお前向きな生命力を感じさせるの著者(現在91歳)の第2歌集。(2013. 4.18刊)

文人嗜好

—中国知識人のライフスタイル—

開催中～6月30日(日)

観峰館

中国文人たちの趣味・愛好を、近代書画作品を通じて紹介します。江戸時代の文人趣味をテーマにした「中国趣味—日本人が憧れた文人文化—」も同時開催。

会場：展示室1

5・4階展示室

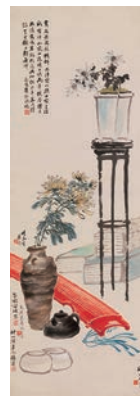
入館料：一般500円

高大生300円

中学生以下無料

休館日：月曜(祝日の場合は翌日)

お問い合わせ先：TEL 0748 (48) 4141



琴棋書画図 中国文人の嗜みとされる四つの趣味をテーマにした合作の絵画作品です。

第2回 びわ湖源流の森づくり

5月4日(土)

巨木と水源の郷をまもる会

びわ湖源流の森に生育するトチノキ林の保全を進めるために、昨年植えたトチノキとオニグルミの苗500本がしっかりとした若木に育つよう植え替えをします。



昨年の笛植風景

集合場所：針江公民館(高島市新旭町針江)

9:30 受付、10:00 開会・挨拶

10:20 基金贈呈式、10:30 作業内容説明

10:45～圃場へ移動・作業開始

12:30 解散

持ち物：作業しやすい服装、軍手、長靴、タオル、お弁当、飲み物、あれば掘り起こしや根切りに使えるスコップ・ショベル

■針江の「かばた」見学(希望者のみ、事前申込要)

見学科：1人1,000円

お申し込み・お問い合わせ先：

巨木と水源の郷をまもる会

(滋賀県立朽木いきものふれあいの里内)

TEL 0740 (38) 3110

FAX 0740 (38) 3212

E-mail tochinokimatsuri@yahoo.co.jp



入賞・入選作品を
モチーフに制作された
ドラマ「石坂線物語」
放送（近畿ブロック）
NHK総合で
4月29日（月・祝）
午後1時5分～

書店で
発売中

電車と青春

21文字のメッセージ2013 家族・初恋

石坂線21駅の顔づくりグループ 編
新書並製本 総90頁 定価630円

第6回となる今年も、電車まつわる青春の思い出をこめた21文字が、全国から3000点以上寄せられた。依万智さんが選んだ最優秀賞などを含め、入選作100を収録。



書店で
発売中

山村大好き家族 おもしろ生活編

オノミチキ 著

A5判並製本 総104頁 定価1260円

子育て編に続く第2弾。山を越えれば福井県という朽木の集落へ著者が移り住んで14年。林業がしたいと東京から移住した夫と3人の子ども、地域の元気な住民、出没する動物たちとの日常をマンガで紹介。

表紙写真 ヤンマーミュージアム展示室（写真／辻村耕司）

編集後記

ちょうどこの号が出る頃（4月下旬）、湖北の田んぼは代掻きの最盛期のはず。水が入った田を進む「赤いトラクター」と、それを追いかけてながら白サギが掘り起こされた虫やミミズをついばむ光景は、春の風物詩です。ヤンマーミュージアムのピオトープも植物が生長して、掲載した写真とはずいぶん違う姿になっていることと思います。㊦



書店で
発売中

長野の山城ベスト50を歩く

河西克造・三島正之・中井 均 編

A5判並製本 総296頁 定価2100円

尾根伝いに支城を有するところも多く、中世には盆地ごとに異なる様相を見せた信濃の山城。武田と上杉がせめぎ合った川中島の戦いの城を始め、みどころ、攻めどころ満載の50の山城と17の平城を紹介。



書店で
発売中

滋賀の子どものたからばこ

滋賀県児童図書研究会 編著

A5横変並製本 総144頁 定価1365円

滋賀県には自慢したくなるモノやコトがいっぱい。私財を投じて図書館や学校を作った先人、海津大崎の桜守りをしている地域、歴史や文化を守り続けている人たち……。そんな子どもたちに読み聞かせたい話を収めた一冊。



書店で
発売中

おうみ
淡海文庫50

湖国の祈りとそのかたち

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課 編
B6判並製本 総202頁 定価1260円

京都新聞滋賀版同名連載の単行本化。国宝・重要文化財数全国第4位を誇る滋賀県の文化財の中から、さまざまな「祈り」の感情を形象化したものを選出。五つのテーマ、62話で示す、湖国の人々の心の「かたち」。



書店で
発売中

別冊淡海文庫 20

甲賀から移された文化財

松岡長一郎 著

B6判並製本 総204頁 定価2100円

古くは織田信長が安土山に創建した寺院の門と三重塔、近年では京都の浄土宗に請来された阿弥陀如来立像など、旧甲賀郡から他所へ移された文化財の数多い運命を探る。

Duetの定期購読をご希望の方は、下記までお申し込みください。

〒522-0004 滋賀県彦根市鳥居本町655-1
サンライズ出版株式会社 Duet 編集部
TEL (0749) 22-0627 FAX (0749) 23-7720
(振替) 01080-9-61946

インターネットでDuetがお楽しみいただけます。

<http://www.sunrise-pub.co.jp/>

お申込先